

「映像クリエイターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 益田 健二郎 先生

〔所属〕 MASS事務所

■ 参加人数 40 人

講座担当者 牧田 雅至

「映像クリエイターの仕事」では、元テレビ局経游記者・ディレクターで取材・映像作成に豊富な知見を有し、現在は企業サービス・商品のプロモーション映像作成などで活躍されている益田健二郎先生を講師としてお迎えし、最新の4Kカメラやドローン機材の撮影体験を交えながら、仕事の面白さ・大変さ・やりがい等を教えていただきました。

I. 映像クリエイターの仕事内容と現代の業界動向

益田先生が実際に作成した映像を見た後に「動画が完成するまでの苦労」や「お客様に喜ばれた時の達成感」を教えていただきました。また、近年増え続けるネット需要によって広告動画の仕事が急増していること、撮影機材が安価になり大企業でなくとも揃えやすくなった背景から、これからの時代に大きく飛躍する業種で、自分らしさや「好き(得意)」を活かせる仕事でもある、というメッセージをこどもたちに伝えていただきました。



2. ドローン・ジンバル(4Kカメラ)の撮影体験

ドローン撮影では宮城野区文化センター・パトナホールで飛行させて、ホール内客席などの様子を高いところから画角を合わせる等の操作を学びました。4Kカメラ撮影ではジンバルを使用して、ブレのない動画の撮影方法を約4kgの装置を持ちながら行いました。実際の撮影現場では良い映像を撮るために降雪や炎天下の環境でも長時間作業で体力勝負になる側面がある等、一瞬の良いシーンを切り抜くための大変さを少しの時間ですが体感しました。



3. 質疑応答から

Q. どんな学校に行けば映像クリエイターになれますか？

A. 現状「ここ！」と言うのは難しいですが、これからは変わっていくと思います。ジャンルも増えているので、得意分野をどんどん強くすると良いと思います。

Q. 映像クリエイターの仕事をしていて嬉しかったことは？

A. 作成した映像を依頼したお客様にとても喜ばれたとき。また、その映像をたくさんの人々に見ていただいたとき。

4. まとめ

映像クリエイターを取り巻く環境は進化の過渡期で、今は新しいジャンルでも将来的に増えていく可能性は無限にあります。ネットメディアの拡大に応じて様々なPR動画も新しい形に進化しながら需要が増えていきます。常に最先端の技術やトレンドを取り入れつつ、自分の得意分野を見つけてセンスを磨いておくことが未来になってから役立ちますので、たくさんのこと挑戦していきましょう。

5. 児童生徒の感想紹介

- 今と昔では今の方がたくさんのが進化していく、映像クリエイターになりやすいんだと思った。
(泉松陵小 6年生)
- 実際に作っている物・機材に触れるなど貴重な体験を通して、より映像クリエイターに興味を持つことができました。
(仙台青陵中 2年生)

「獣医師の仕事」活動紹介

■ 講師：釜谷 大輔先生、小山 彩花先生（仙台市動物管理センター）
後藤 美佐先生、福岡 房枝先生（NPO法人エーキューブ）

■ 参加人数 24 人

講座担当者 永島 功三

「獣医師の仕事」では、動物管理センターから釜谷大輔先生、小山彩花先生、NPO法人エーキューブから後藤美佐先生、福岡房枝先生をお招きし、獣医師の仕事だけでなく、日常生活における動物との接し方などについても、様々な体験活動を通して教えていただきました。また、プードルのニノンちゃん（雌・1歳）と、シーズーのリンゴくん（雄・9歳）も参加し、こどもたちの充実した体験活動のために大活躍していました。

I. 動物の能力や行動

講座の前半では、主に犬や猫の体の仕組みや、能力・行動について教えていただきました。こどもたちは、犬・猫の嗅覚や聴覚が人間よりもはるかに優れていることを知り、とても驚いていました。次の体験活動では、①正しい犬とのふれあい方・②犬の聴診・③一匹で歩いている犬に出会った場合の対処等について学びました。散歩をしている犬と触れ合いたいときは、まず飼い主の方に挨拶をして犬に触れる許可を得ることが大切であることを教えていただきました。こどもたちは、犬を驚かせないようにゆっくり優しく接していました。聴診では実際に医療器具を使って心音を聞くことができました。また飼い主から離れてしまった犬に出会ったときは、犬を刺激しないよう「木のように動かない」という練習も行いました。むやみに動物に触ってはいけない場合もあるということを、こどもたちはしっかり理解をしていました。

2. 獣医師の仕事

講座の後半では、獣医師の仕事について教えていただきました。獣医師になるためには、6年制大学で獣医学を学び、国家試験に合格し「獣医師免許」を取得しなければなりません。卒業してからも、それぞれの分野で専門的なトレーニングが必要になります。獣医師の就業は多岐にわたり、公務員や一般企業で活躍する場合もあります。こどもたちは熱心にメモを取っていました。講座の最後には、「吹き矢（麻酔のため）」の実演があり、こどもたちは、動物を診断するときの苦労や難しさを実感していました。

3. 質疑応答から

- Q. 獣医師になるために、どんな努力が必要ですか。
 A. 特に理系の勉強（算数・理科（特に生物関係）・英語など）を頑張ってください。人とうまく関わる姿勢も大切です。
 Q. 動物を診察するときに気を付けていることは何ですか。
 A. 飼い主の方にあらかじめ動物の性格や行動の特徴を聞きます。受診後におやつをあげるなど、動物が病院を好きになる工夫も大事です。

4. まとめ

「動物を診察するときの難しさ」として、相手が動物であるがゆえに、言葉でコミュニケーションがとれないため、意思疎通や具合が悪い場合の対処が非常に難しく、危険を伴う場合もあることを教えていただきました。その上で、獣医師に必要なスキルとして、①深い専門性があり、常に学んでいく姿勢があること、②コミュニケーション能力が高いこと、③強い精神力・判断力が必要であると教えていただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 獣医師には動物を助けるだけでなく、人間を守る仕事もあって、どの道を選択するのか大きな選択になると思いました。（八幡小 6年生）
- 仕事でのやりがい、必要なスキルなど、獣医師に必要なことを学びました。これからも獣医師の仕事について調べていきたいと思いました。（原町小 6年生）



「動物園飼育員の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 三浦 健太郎 先生
 〔所属〕 仙台市ハマ山動物公園フジサキの杜

■ 参加人数 37 人 講座担当者 大久保 裕隆

「動物園飼育員の仕事」では、ハマ山動物公園で勤務されている三浦健太郎先生を講師としてお招きし、飼育員のお話をいただきました。動物園飼育員の1日の仕事ややりがい、大変なことなどを写真を用いながら分かりやすく説明していただきました。飼育員として「働く」とはどのようなことか深く考える時間となりました。

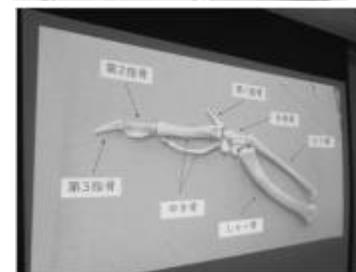
1. 飼育員の魅力と苦労

三浦先生が考える魅力として、「毎日様々な動物と関わることで日々、動物たちの新しい変化や発見に気づくことができる。」「充実しているからこそ一日があっという間に過ぎる。」という話をいただきました。一方、苦労としては「飼育員だからといって相手をするのは動物だけではない。」「仕事をしている以上、苦手なことにも取り組まなければならない。」ということをお話しいただきました。働くことは好きなことだけをしていればよいわけではなく、苦手なことにも取り組む責任があることを先生の経験から丁寧に教えていただきました。



2. 骨格標本の作製

生き物の骨格標本を作ることも動物園の仕事の一つであることを説明いただいた上で、ニワトリの手羽先の骨格標本をグループごとに作製しました。ニワトリの手羽先は細かく分けると10本以上の骨で構成されており、どのような形に付ければよいのか皆で相談しながら協力して作業を進めました。正解発表では、正しく並べられたグループは一つもなく、標本作製の難しさを実感していました。



3. 質疑応答から

- Q. 仕事で気を付けていることはどんなことですか？
A. 動物と関わりを持つ上ではケガをする可能性がある。そのため、危険な目に合わないよう意識して仕事をしている。
- Q. 飼育している動物がなつくことはありますか？
A. 基本的にはなつくことはないと思ってほしい。ペットとして家で飼っている動物は人に慣れるように生み出されている種類がほとんど。

4. まとめ

講話の最後に動物園飼育員の求人倍率についてお話をいただきました。例として令和3年度は倍率が17.5倍で35人中2人しか合格者がいなかったそうです。また飼育員は毎年必ず募集をしているわけではないとのことでした。狭き門のため、「本当に飼育員をやりたいという気持ちがあるのなら覚悟を持って夢に向かっていく姿勢が大切。」という話をいただきました。現実的ですが、だからこそ大切な話を真剣に聞くこどもたちの姿が印象的でした。

5. 児童生徒の感想紹介

- 自分が考えていたよりも飼育員になるのは大変なことが分かった。飼育員ではなくても動物に問い合わせるということを改めて知ったので、家でじっくり考えてみようと思う。自分が納得できる仕事をつきたいと思った日でした。
(幸町中 3年生)

「保育士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 高橋 麻希 先生、瀧田 康葉 先生
 〔所属〕 こども若者局幼稚園・保育部 運営支援課

■ 参加人数 21 人

講座担当者 針生 真由美

「保育士の仕事」では、幼稚園や保育の現場で経験があり、現在はこども若者局幼稚園・保育部運営支援課に所属の高橋麻希先生と瀧田康葉先生を講師としてお迎えし、実践を交えながら教えていただきました。

I. 保育士の仕事

保育所と幼稚園の違いについて、施設の種類や資格・免許、対象年齢などそれぞれが違うことを学びました。また、一日の流れのお話では、体験談を交えながら、お子さんの様子を丁寧にお伝えできるように配慮している一面も教えていただきました。先生たちがそれぞれの得意分野を活かして協力し、お子さんの成長する姿を楽しみながら仕事が出来る喜び、保育士になるまでの過程で学んだことが今に活かされていることを教えていただきました。



2. 実践体験

赤ちゃん人形を使って、哺乳瓶での授乳・おむつ交換・だっこ・おんぶ体験を行いました。おんぶ体験では、二人一組になって赤ちゃんをおんぶすることに手こずりながらも、赤ちゃんの安全面を第一に体験していました。体験を通して保育士の様々な仕事について理解を深める活動となりました。



3. 質疑応答から

- Q. 保育士になって、一番やって良かったと思う時はどんなときですか。
 A. お子さんの成長を感じられる時です。
- Q. 幼稚園教諭の免許も取得した方が良いですか。
 A. 保育士の免許と幼稚園の免許は違うけれども、取得した方が幅が広がるので取得した方が良いと思います。

4. まとめ

保育士は、子どもの命を預かるというとても責任が大きい仕事ではあるが、子どもたちの成長を常に感じることができる。そして、子どもとの関わり方に正解はない。日々自分たちも成長しながら、子どもたちと経験できることが何よりの働き甲斐になっていることを幸せに感じる、というお話をいただき、最後に「受講生と将来一緒に働くことができたら最高に幸せですね。」と伝えていただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- この講座を受ける前は「保育士は、子どもと関わる仕事」だとしか思ってなかっただけど、受けた後はとても詳しくなった気がしました。私は、子どもと関わることが大好きなので、周囲も笑顔になれる保育士になりたいと思いました。 (古城小 6年生)
- 人形の赤ちゃんで実際に体験することができて、とてもいい経験になりました。将来、保育士になれたら今日の経験を活かしたいです。 (荒巻小 5年生)

「建築家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 作山和輝 先生、江田紳輔 先生、犬飼崇典 先生、門脇悠 先生
佐々木結 先生、谷米匠太 先生

〔所属〕 株式会社 関・空間設計

■ 参加人数 43 人

講座担当者 河野 貴之

株式会社関・空間設計は、東北地方を中心に多種多様な公共・教育・医療施設等の設計・監理をしている会社です。今回は6名の講師の方から、建築の魅力や設計の仕事で大切にしていることなどをお話しいただき、身の回りの物を計測する体験実習を行いました。

1. 楽しいケンチク・建築家の仕事

楽しいケンチクの話では、ユニークなデザインの幼稚園や児童遊戯施設、世界の美術館をクイズ形式で紹介していただき、建築物の面白さや魅力を感じることができました。

建築家の仕事の話では、関・空間設計が大切にしている言葉「Spirit of Place」の具体的な4つの理念「住んでいるいろいろな人の意見を聞いて設計を考えること」、「歴史や風土を大切にし、その場所になじむ建築をすること」、「いろいろなつながりをデザインすること」、「100年後も使ってもらえるような建物を未来の人につなぐこと」についてお話しいただきました。また、設計に関わった具体的な施設として、富谷市の「とみやど」、女川町の「しおかぜ保育所」、仙台市の「東六番丁小学校」をご紹介いただきました。計画から完成までのストーリーを詳しくお話しいただき、様々なことを考慮して設計され、たくさんの方々の思いが込められてできた建物であることを知ることができました。



2. 体験実習

「カッコいい建築家」になるには、身の回りのものや空間の大きさを分かっておくことが大事と教わりました。そこで、グループごとに自分たちの体の大きさを使って、様々な物の大きさを測る体験実習を行いました。まず、3人組で自分たちの手のひらの大きさ、両腕を伸ばした大きさ、片手を上に伸ばした時の踵から指先までの垂直の長さの3つをメジャーで測り、その大きさを活用して、椅子、長机、扉、バドミントンコートの4つの大きさをメジャーを使わずにグループで声を掛け合いながら計測しました。この活動を通して、建築家に必要な大きさの感覚を実感することができました。



3. 質疑応答から

Q. 建築家になるには、今どんな勉強に取り組むとよいですか。

A. 身近な長さを知ることが大切です。好きな建物を見学に行くなどして、夏休みにぜひいろいろな建物を見てほしいと思います。

Q. 設計で気付けているのはどんなことですか。

A. 人の話をよく聞くこと、いっぱい考えることです。いろいろな人に関わってもらって建物はできるので、関わってくれる人の思いを大切にして設計しています。

4. まとめ～講師からのメッセージ～

建築には、それをつくる人、使う人、地域の人など、いろいろな人が関わっています。だから、人の話をよく聞いて設計することを大切にしています。図面を描くのは大変な仕事ですが、その先に使ってくれる人の喜びがあります。たくさん考えて、自分の考えたものが形になるとき、建築家としての喜びややりがいを感じます。仙台には私たちが設計した建物がたくさんあります。是非いろいろな建物を見てほしいと思います。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 建築家になるのは大変そうですが、私は図工でものをつくりたり、絵を描くことが好きなので、あきらめないでやろうという気持ちになりました。そして、他の人を喜ばせたいです。 (錦ヶ丘小 5年生)

○ 建築家にとって大切なことや、今からできることを知ることができて、楽しかったです。建築家だけでなく、地域の人たちなど多くの人が建設に関わっていて、他の仕事にも興味を持ちました。

(柳生小 6年生)

「キャビンアテンダントの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 鈴木 鼓々 先生、白石 菜々花 先生
〔所属〕 アイベックスエアラインズ株式会社

■ 参加人数 27 人

講座担当者 高平 吉康

キャビンアテンダント(CA)の仕事では、アイベックスエアラインズ株式会社で日々接客業務にあたっている鈴木鼓々先生と、同社客室管理課の白石菜々花先生をお迎えして、CAの仕事について体験活動を交えながら教えていただきました。

1. キャビンアテンダントの仕事～コミュニケーションの大切さ～

乗務員同士のコミュニケーション訓練を行いました。こどもたちが背中合わせに座って、それぞれが自分のカードに描かれた内容について言葉だけで説明します。言葉で伝える難しさを感じることができました。飛行機の中では、お客様の安全を守るためにパイロットとCAがコミュニケーションをとって、運航をしています。言葉で物事を伝える大切さを学ぶことができました。



2. キャビンアテンダントの仕事～非常時の訓練について～

CAの重要な仕事として、非常時の対応を教えていただきました。お客様の安全を守るために、非常に冷静になって対応できるよう、たくさんの訓練をしているということを学びました。実演として、代表の児童が緊急時に使用するライベストを着用して、実際にベストが膨らむ様子を体験することができました。膨らむ際の音の大きさに、参加したこどもたちは驚いていました。



3. 質疑応答から

- Q. キャビンアテンダントになるために一番苦労したことは何ですか。
A. 入社してからの訓練が一番大変だった。非常時に使用する備品を一言一句間違えないように覚えること。また、突然与えられる訓練課題に対応するのが大変だった。
- Q. キャビンアテンダントとしてのルールを教えてください。
A. メガネを着用してはならないこと。コンタクトレンズを着用しなければならない。また、ネイルについても決まりがある。身だしなみについては厳しい。

4. まとめ

今回の講座では、将来CAになりたいこどもが多く参加していた印象でした。質疑応答の時間では多くの参加者が挙手をして、講師の先生へ質問していました。華やかなイメージのCAですが、実際に働いているCAの訓練の様子や、その厳しさについてもこどもたちに伝えいただきました。海外に行くことや、お客様から感謝を伝えられるなどのやりがいも多く感じられる職業だと教えていただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 首にまくスカーフがケガの応急手当に使えるのがすごいと思いました。私は旅行が好きなので、将来CAさんになりたいと思いました。 (国見小 5年生)
- 保安業務とサービス業が分かれていることを知った。また、コミュニケーション能力が必要不可欠であることがわかった。 (田子中 2年生)

「花屋の仕事」活動紹介

■ 講師：中村真実子先生、三浦理恵先生（ガーデンゴッコラ）
小山拓美先生（株式会社仙花）

■ 参加人数 23 人

講座担当者 藤井 雅美

前半は、中村先生から花屋になったきっかけや花屋の仕事内容についてご講話いただきました。後半は、競り人の小山先生と競りの模擬体験をしました。これまで目にしたことのない花屋の仕事を知る機会となりました。

1. 自己紹介及び花屋の仕事について

講師の中村先生が花屋になったきっかけを聞きました。庭の花を売ったことがきっかけで、売れる数が増えるとホームセンターから仕入れて売るようになり、次第に市場での競りに参加することが目標になったそうです。また、花屋の仕事は、花の特徴に合わせて水をやったり、枯れた葉を取りたりすること、そして一番大事なのがバケツをきれいに洗うことだと聞きました。受講生は想像していた花屋の仕事との違いや大変さに驚いていました。



2. 競りについて

動画で講座当日朝の市場での競りの様子を見せていただきました。競りに参加するためには条件があること、中村先生が競りに参加することを目標に頑張ってきたことを知りました。競り人の小山先生からは、「いくらで買いたい」という意思表示の仕方について教えていただきました。自分の番号と指で値段を示す練習をしました。休憩時間には、自分が競り落とした花を選びました。



3. 競りの体験について

小山先生（競り人）の花についての説明を合図に、模擬競りが始まりました。はじめは他の友達の様子をうかがいながら競りに参加していましたが、小山先生の掛け声や次々と花が登場して競り落とされていくスピードに慣れてくると、手の挙がり具合にも勢いが出てきました。花の名前や産地、本数だけでなく、季節感や用途をテンポよく伝えてください、競りを体験しながら花についての新たな知識を得ることができました。



4. まとめ

花の競りの模擬体験を通して、まるで本物の花屋になったような気分を味わっていました。仕入れの流れや競りのやり取りを体験する中で、花屋の仕事の裏側や花の手入れ・バケツを洗うといった大切な作業にも気付き、花屋の新たな一面を知ることができました。競り落とした花は、講師の先生方が一まとめにして手渡してくれました。一人一人に声を掛けてくれる様子は、まるで花屋とお客様のようで、あたたかな触れ合いの時間になりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 花屋さんが、ブーケを作る以外の仕事をしていることを知りました。花の管理が大切で花によって世話の仕方が違うので、気を付けたいです。 (通町小6年生)
- 花屋の仕事は、とても大変だということが分かりびっくりしました。競りの仕事も、みんなに買つてもらえるように工夫しているのがすごかったです。 (新田小6年生)

「学校の先生の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 伏見滋先生（南材木町小校長）、遠藤勝彦先生（原町小教頭）
三浦絵衣実先生（東四郎丸小教諭）

■ 参加人数 23人 講座担当者 早坂 孝一

今年で伏見先生が5年連続講師となった本講座ですが、事前の打ち合わせで伏見先生は、こども達に伝えたいテーマは「義理と人情」であり、人はふれあいの中から関係が始まり、互いに協働する事で人情が育まれるという、人の生き方そのものを伝えたいと、意気込みを語っておられました。

1. 学校での仕事

こども達の緊張を解すかの如く、伏見先生の小気味良い軽快なトークから講座は始まりました。恒例の時間割（約15分間隔で進む）を掲げて、座席は違う学校・学年の子をミックスさせたグループとなり、こども達は初対面となる他校の子との出会いからという、伏見先生の思惑通りのスタートとなりました。積極盛んなこども達は、こちらの心配を他所に徐々に打ち解け合い、雰囲気が和やかになりました。3時間目の算数・国語では、テストの丸付けと不正解回答へのアドバイスを、こども達は体験しました。花丸の付け方が大きく綺麗な子が居たり、こちら大人が驚く魅力的なアドバイスを書いている子も居て、伏見先生は「上手で素晴らしい花丸です」「とても優しいアドバイスです」と、こども達を褒め称えていました。この時点では会場の雰囲気はすっかり伏見ワールドに包まれ、こども達の目が輝きはじめ、楽学プロジェクトの目的を射抜いている感が溢れました。



2. 学校の先生の仕事の魅力

4時間目、学校の先生の魅力と題した総合学習の時間では、遠藤先生と三浦先生にお話しいただきました。先ず遠藤先生からは、人を育てる事は難しく、リセットボタンは押せないという事を伝えていました。しかし反面、成長が垣間見える感動がある事が、一番の魅力であるという事も伝えていました。続けて、学校とは先生だけではなく、地域やPTAなど沢山の人たちが関わってくれる事で、成り立っているという事を伝えていました。その場面で、私（早坂）も、我が子の幸せだけでなく、周りの子の幸せも願っているという事を伝えて、

そういう活動を楽しくやるために、是非協力して欲しい事を、帰ったらご両親に伝えて欲しいとメッセージさせていただきました。三浦先生からは、かつての教え子とのエピソードを交えながら、達成できた感動をこども達に伝えていただきました。また、産休育休を取得したご経験から、自身の子育てと学校で児童達と向き合う事で、どんどん天職であると思えてきたという事を、こども達に伝えていただきました。また今の時代は、男の先生も育休を取得する事が増えてきていて、他の業者より育休を取得しやすいという事も、こども達に伝えていただきました。



3. 質疑応答から

- Q. 一番大変なことはどんなことですか。
A. 大変なことではないですが、人の悩みは十人十色です。悩んでいる子に対しては丁寧に対応するように心掛けています。
- Q. うれしかったことはどんなことですか。
A. 成長する様子が見られたときに喜びを感じます。できなかったことができるようになった姿を見るとうれしい気持ちになります。

4. まとめ

講座の終盤、昼の放送では、グループ対抗の、仙台に因んだクイズ大会になり、私や他の講座担当者で組む大人チームと、ジュニアリーダーチームも参加し、場の雰囲気の盛り上がりと、こども達の笑顔はMAXになりました。この様に、伏見先生のお人柄により、こども達に何かを感じとて欲しいという暗示と、夏休みの思い出として持ち帰って欲しいという、講座そのもののメッセージが正に浸透したことがこども達の事後レポートからも感じられました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 講座を受けて、先生という仕事が「大変そう」から「楽しそう」に変わった。 (芦口小 5年生)
- 学校で行事の際に先生や地域の人が支えてくれている事を知ることができた。 (高砂中 2年生)

「しようがいのある方を支える仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 半沢まり子先生、佐藤和仁先生、村上泰庸先生、横山加奈先生
江渡彩夕子先生、鈴木芽衣先生

〔所属〕 社会福祉法人 つどいの家

■ 参加人数 20 人

講座担当者 菅原 浩江

社会福祉法人つどいの家から6名の講師の方々をお迎えし「しようがい」のある方を支える仕事について学びました。「しようがい」ってなんでしょう？そんな問い合わせから講座はスタートしました。



1. ようがいの種類と支援

「ようがい」にはさまざまな種類があります。手や足が不自由な人、自分の状況や気持ちを伝えるのが苦手な人、気持ちの切り替えが苦手な人、それぞれのニーズに応えるべく「苦手なことを手伝う」だけでなく、本人のできることを増やしていくサポートもしています。ようがいを持つ方々は、人の心を動かし、笑顔にすることができるのです。

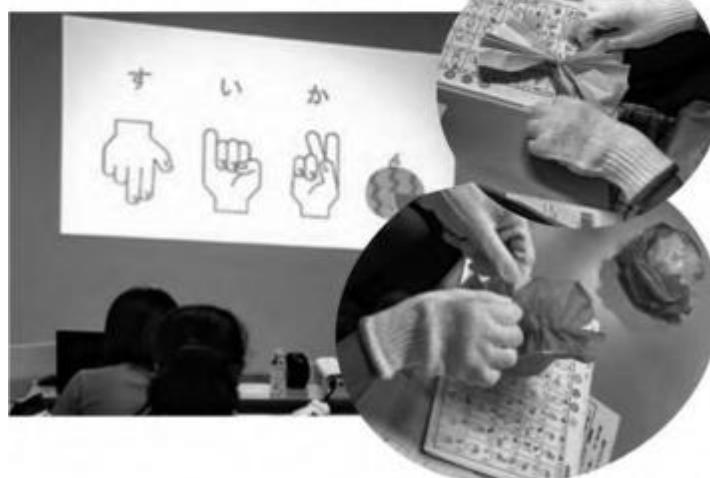
2. やってみよう

①手話を理解！

「ゆびもじ」表を見ながら何の言葉かを当てるクイズに挑戦

②ハンディキャップ体験！

～軍手をはめて紙のお花を開いてみよう～
制限時間内に完成できるでしょうか？
両手に軍手をはめたら指先を少し引っ張りゆるい状態にします。思うように指が動かせず不自由とはこういうことなどと体感できました。



3. 質疑応答から

Q. どんな人がこの職業に向いていますか？

A. 人と関わる事、楽しい事が大好きで、誰かのサポーターになりたい人。細かな変化・違いに気付くことが得意で利用者さんとチャレンジしてみたいことがある人。

Q. 仕事をしていて大変なことや気をついていることは何ですか？嬉しかったことは？

A. 大切なのは利用者さんとのコミュニケーションです。相手が嫌な思いをしていないか、喜怒哀楽が顕著な方には表情や身体の動きで感じ取るように心掛けています。心を開いてくれたときはとても嬉しく、やりがいを感じます。

4. まとめ

つどいの家の利用者さんの過ごし方を動画で見せていただきました。施設内の活動だけではなく、ケーキ屋さんに行き、好みの商品を自分で選ぶこともあります。そのケーキを皆で美味しいいただく様子はとても楽しそうでした。そのほかにも、おまつりを開催したり地域の方々との触れ合いの場を設ける等をしています。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 身体が自由には動かせないけど、施設の方々のおかげで、いろいろなことができるようになっているんだということが分かりました。将来は、ようがいのある方々を支える仕事につきたいなと思いました。言葉でコミュニケーションが取れなくても、表情などで感情を伝えるのだとよく分かりました。

(連坊小路小 5年生)

○ ようがいのある方がどのようなことが苦手で、どのようなことが得意で、一緒にどのようなことを考えて行動していくのかなどがよく分かりました。また、動画を見て、笑顔になったときは、私も嬉しい気持ちになりました。これからも困っている人がいたら手を差し伸べられるような人になりたいと思いました。

(八木山中 2年生)

「和菓子職人の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 森谷 隆之 先生
〔所属〕 仙臺菓匠庵 菓心モリヤ

■ 参加人数 24 人

講座担当者 伊世 貴志

若林区に店を構える昭和47年創業「菓心モリヤ」の店主、森谷隆之先生を講師にお招きしました。前半は、和菓子作り体験を行いました。和菓子作りのこつや、使う食材、道具などを丁寧に教えていただきながら、各自1つの和菓子作りに挑戦しました。後半は、様々な和菓子やお弟子さんのお話をしたり、受講生からの質問に答えたりしました。

1. 和菓子作り体験

まずは、各自1つの和菓子「練り切り」を作ることに挑戦しました。練り切り作りは、生地がすぐに乾燥していくので、スピードが勝負です。色付けした生地を白生地で包み、その後餡子を入れて包み、最後木べらで模様を付けていく、という工程を素早く行うことを、実演を通して学びました。森谷さんの熟練された手の動きに感動しつつ、その様子を頭に入れた後、いざ実践です。失敗する子もいるのでは、下に落とす子もいるのでは、という不安がありましたが、全員見事に完成し、皆、達成感を味わっていました。先生も、とても上手と賞賛されていました。できた練り切りは、用意された容器に入れて、おみやげに持ち帰りました。



2. 和菓子に関する様々なお話

後半は、菊や鶴、木型で作る和菓子などを、実演を通して紹介してくださいました。特に、菊の和菓子の出来栄えには、皆が感動していました。また、フランス人のお弟子さんが活躍する様子や、和菓子を作る上で考えていることなど、様々なお話をしていただきました。

3. 質疑応答から

- Q. 何年練習すればうまく作れるようになりますか。
A. 答えられません。1時間でできる場合も10年かかる場合もあります。なぜなら、本人の感性が関わってくるからです。感性を磨くために京都に住み始めた子もいます。
- Q. 和菓子職人の1日はどういう感じですか。
A. 夜中3時頃から作り始めます。なぜなら静かで作りやすいからです。同じものは作らず、色を変えていきながら、大体夕方まで作っています。

4. まとめ

和菓子には、「形・味・色」の3つの要素があります。3つの要素への感性を日頃から磨くことが大切です。森谷さんは、ミュージックビデオなどの映像を見てヒントを得ることが多いとのことです。映像はとてもクリエイティブなのでアイデアが浮かびやすいのです。そういった努力を重ねながら、食べていただく方の笑顔のためにも、日本の伝統文化でもある和菓子を伝えていくという思いで仕事に励んでいるということを学びました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 私も和菓子職人になりたいなど感じました。今度家でも作って家族にふるまってあげたいです。
とても分かりやすい説明で楽しかったです。 (栗生小 5年生)
- 和菓子は職人の技と感性によって作られていることが分かりました。和菓子の技術は世界に誇れるものだと感じました!! (五城中 1年生)

「パイロットの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 原野 智行 先生、樋口 健太朗 先生
〔所属〕 アイベックスエアラインズ株式会社

■ 参加人数 28 人

講座担当者 奥山 祥彦

航空パイロットは子どもの頃一度はあこがれる職業。今回はアイベックスエアラインズ株式会社より2名の講師をお迎えし、実際に飛行機を操縦しているときの様子や、使う道具、仕事のやりがいなど多岐にわたり教えていただきました。パイロットを目指したいと考える子どもたちにとって大満足の時間となりました。

1. 飛行機を飛ばすには

講座が始まりますはアイスブレイクの時間。隣の人と「操縦中に積乱雲に直面したらどうするか」について話し合いました。実はこれがパイロットに必要な「コミュニケーション力」で、飛行機は一人で飛ばすものではなく、バディの操縦士や客室乗務員の方々とチームワークで運航するのだそうです。また、着陸までに考えることや操作しなければならないことを、映像を交えて教えていただきました。これも、間違いがないように、操縦している二人で一つ一つ確認することでした。二人で確認することで、着陸まで正しい手順で操作することができ、安全な運航につながっているのだそうです。



2. パイロットの道具

休憩中には、パイロットの道具である、ライセンス、ルートマニュアル、フライトログブック、ヘッドセット、サングラス、グローブ、アルコール検知器、ジャケットを実際に触らせていただきました。本物の道具に子どもたちも大興奮。触ってみたり着てみたりと、休憩中、道具の周りにはずっと人だかりができていました。先生方は、その間にも子どもたちから出る質問に、丁寧に答えていただきました。



3. 仕事のやりがい

休憩の後は、仕事のやりがいについて教えていただきました。大好きな飛行機を飛ばしたり、色々な場所に行けたり、各地のおいしいものを食べたりできるのもよいのですが、何よりやりがいを感じるときは、パイロット2人、客室乗務員2人の計4人で、協力して飛行機を安全に飛ばし、フライトを完了させた時なのだと思います。また、安全に飛行機を飛ばすために、日ごろからコミュニケーションをとることや、現状に満足せず、今よりもっと上達したいという思いを持つことの大切さも教えていただきました。



4. まとめ

最後に「はたらくとは」という題で先生方の思いを教えていただきました。「誰かのために何かをすること」、「人生を充実させること」、「やった、できたという思いの楽しさは大人になっても変わらない」といったお話のほか、将来について「夢を決めつけないこと」、「夢は変わっても、それまでの努力は無駄にならないこと」といった子どもたちの心に残る言葉を教えていただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 年下を対等として見ることは大切なことだなと思った。コックピットのスイッチの数が予想以上で500もあると聞いておどろいた。夢は変わっていいんだと思った。 (七郷小 5年生)
- 仕事を選ぶときに大切なことや、仕事をすることのやりがいが分かってよかったです。パイロットになるためにはいろいろな方法があるし、一度他の仕事をしてからでもパイロットになれることが分かった。 (第一中 2年生)